

大型空き店舗を活用したチャレンジショップと多彩なイベントにより中心市街地を活性化

北見商工会議所

機関名	北見商工会議所		
所在地	北海道北見市北3条東1丁目		
電話番号	0157-23-4111		
地域概要	(1)管内人口 11万2千人	(2)管内商店街数	商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 4商店街	(2)会員数	220商店
	(3)空店舗率 15%	(4)大型店空き店舗数	1店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成14年度 空き店舗対策事業

- ・チャレンジショップ
- ・海外からの留学生との交流の場として、体験教室、市民サークルの作品展示等のイベントを開催
- ・世界のお茶が飲める休憩施設等を実施

総事業費

8,700千円

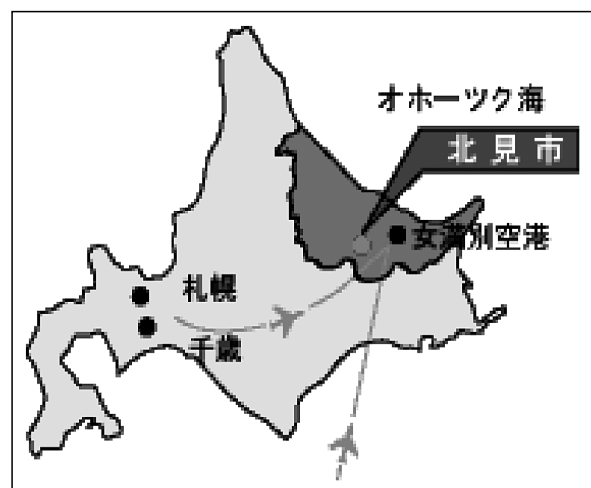
【事業実施内容】

1. 背景

北見市は北海道の東部、オホーツク地域の産業・経済・文化の中心都市であり、オホーツク圏の交流拠点都市として広域的な役割を担っている。

北見市の中心市街地では、平成10年、11年に中心商店街の大型店が閉店する一方、12年には中心市街地から2キロメートルの範囲内に相次いで大型店が出店し、大型店同士の競争も激化、中心市街地の商店街を取り巻く環境は一層厳しさを増している。

中心市街地の空き店舗の増加、居住人口の減少といった空洞化現象が顕著となり、このまま推移すればまちの顔である中心市街地の衰退の深刻化が避けられない状況にある。



北海道における北見市の位置

このような状況を受け、平成10年度に策定された「中心市街地活性化基本構想」を踏まえ、12

北見商工会議所

年度に商店街等活性化先進事業を実施した。その一事業が空き店舗を活用した「チャレンジショップ」であり、13年度もこの試みを継続して実施した結果、各年3人が出店、3人が中心市街地などで開業を果たしている。

2. 事業内容

本事業の内容は、中心市街地の大型空き店舗を会場に、従来からの「チャレンジショップ」の出店数を増やすとともに、一般市民・高齢者・留学生・福祉団体が関わったソフト事業を充実させるというものである。また、本事業の特徴は、ショッピングゾーンとしての回遊性を高め、大型店にはない魅力を付加した点にある。

本事業は北見商工会議所が関係団体の協力を得て、「商店街等活性化先進事業実行委員会」を組織し、ふれあい・チャレンジ事業部会、イベント事業部会を設置して事業を推進した。

- ・事業期間 平成14年7月1日～11月30日
- ・実施場所 北見市北1条西1丁目
旧まるしょうデパート1階
(982.77㎡)
- ・名称 「きたみ中心商店街まちなかSHOW10 (しょうてん)」。

(1) チャレンジショップ (7月6日～11月10日)

大学生・主婦・自営業者などの18歳から64歳までの11人(開店時)が出店した。取扱い品目は、インターネットカフェ・雑貨・マッサージ・飲食・手芸品・風船・リサイクル品など、バラエティに富んでおり、個性的なショッピングゾーンとなった。

(2) 福祉村 (7月6日～11月10日)

障害者施設の「川東学園」と「工房みさと」、北見陶芸同好会が出店。各団体が作ったハム・ソーセージ・工芸品・陶芸品などを展示・販売した。

(3) 街角ギャラリー (7月6日～11月10日)

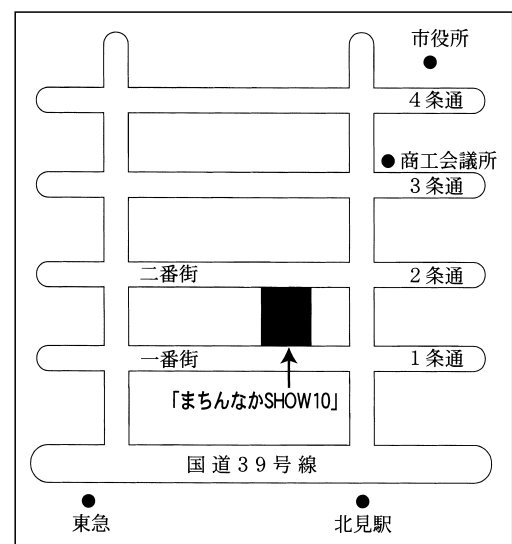
市民サークルの発表の場として開放し、地域の文化情報を発信した。出店内容は、絵画・写真・文学・押し花・水墨画・オリジナルアート。また、21きたみTMO推進会議は「昔なつかし北見パネル展」の展示を、2番街商店街は「行燈」の展示を行った。

(4) 韓国村 (7月6日～8月31日)

土・日曜日に北見市在住の韓国人留学生と支援者が韓国を紹介するとともに、韓国式押し花教室を開催し、市民と交流を深めた。

(5) 匠の技伝承教室

市内に居住する専門家の指導によ



「まちなかSHOW10」の位置



「まちなかSHOW10」の会場

り、技術の習得・伝承に取り組んだ。陶芸教室・本格手打ちそば教室・ハーブ染め教室・秋のリース教室・クリスマスアレンジ教室・キムチ教室・手作りギョウザ教室を開講し、合わせて126人が受講した。

(6) 世界の交流ゾーン

休憩所を兼ねたお茶室を設置し、北見に在住する留学生の母国のお茶を紹介するとともに、市民の交流の場とした。

(7) イベント

①前夜祭・グランドオープン（7月6・7日）

テープカットに続き、和太鼓・よさこいソーラン・中国の民族舞踊などが披露された。この模様はミニFM局で中心市街地に発信され、2日間の来場者は1,800人に上った。

②おもしろ抽選会（7月20・21日）

第49回北見ぼんちまつりに合わせて「おもしろ抽選会」・ミニFM放送を実施した。ミニFMでは、北海学園北見大学メディアサークルとスカイで祭りを実況中継した。

③ありがと値感謝祭（9月13～15日）

「チャレンジショップ」各店が日替わりサービス品を提供したほか、豪華景品が当たる中心商店街お買い物券抽選会を実施した。

④まちなか100円祭（10月19・20日）

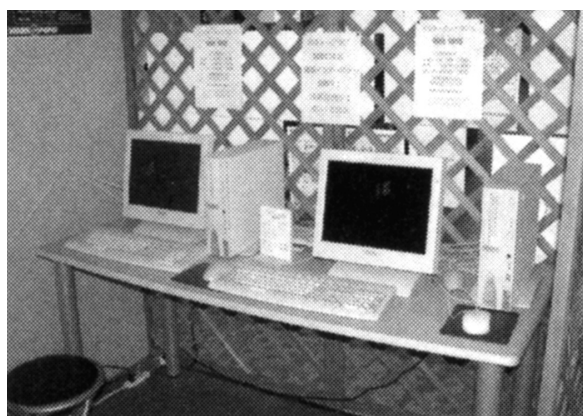
第50回北見菊まつりの開催を記念して「まちなか100円祭」を企画した。チャレンジショップ100円shop・中心商店街100円shop・まちなか100円食堂（もつ鍋・がじ煮・そば・うどん・コロッケ・オホーツクビール）などが出店するとともに、日替わりバーゲン（自然卵・リンゴ・イチゴ・カボチャ・白菜）・ハーブ体験教室・シャンソン歌手の歌声披露・まちなかラジオ局などを実施した。

⑤ファイナルセール（11月9・10日）

最終2日間に「ファイナルセール」を実施した。「チャレンジショップ」各店が通常より値引きした価格で商品の提供を行った。



まちなか100円祭の様子



チャレンジショップの様子

【効 果】

開業期間中の入館者数が5万人を超え、「チャレンジショップ」全体の売上高も1,200万円を超

北見商工会議所

えことから、来館者数・売上高ともに予想を上回る実績を挙げることが出来た。

- (1) 「チャレンジショップ」の出店や教室の開講、さまざまなイベントの開催によって賑わいを創出することで、商店街全体のイメージアップを図ることができた。
- (2) 一番街と二番街を通り抜けできる構造になっていることから来街者の利便性や回遊性が向上するとともに、「チャレンジショップ」出店者にとってPR効果が大きかった。
- (3) 多数の企業・団体・個人との協力体制を構築し、まちづくりを実践したことで「人づくり・仲間づくり」の輪を広げることができた。
- (4) 「チャレンジショップ」出店者に対する起業家支援事業の勉強会や週1回の出店者連絡会開催によりスムーズな店舗運営が可能となった。



チャレンジショップ出店者募集案内

【課題・反省点】

- (1) 「まちなかSHOW10」全体のディスプレイに統一感をもたせるとともに、空間の有効活用を図ることが必要である。
- (2) 商店街との一体感をより高めるようイベントを開催することが必要である。
- (3) 「チャレンジショップ」オープン前の出店者に対する経営管理・接客・心構えなどについての指導内容の充実を図ることが必要である。

また、来館者アンケートからの結果では、PR力の向上・若者への対応の充実・個店の魅力の向上などについての要望が多いことから、今後これらに対応していくことが課題となると考えている。

【教訓】

多くの市民と接触できる場を多く作る事が重要である。

このことを通して、市民からの理解を得ることが可能となり、市民合意形成への一番の近道になると考えられるからである。また、事業を継続していくためには大変なエネルギーを必要とするが、活動しなければ何も変えることができないと実感している。

【関連URL】

北見商工会議所 <http://www.okhotsk.or.jp/~syokokac/>